

## 芸術における感情表現

オーガナイザ

源河 亨（日本学術振興会・東京大学）

### 提題者

源河 亨（日本学術振興会・東京大学）：「作者の感情表出と鑑賞者への感情喚起」

松永 伸司（東京藝術大学）：「例示としての表出：ネルソン・グッドマンの立場から」

森永 豊（国学院大学）：「音楽鑑賞における感情の身体性」

田邊 健太郎（立命館大学）：「音楽学から見た分析美学の「表出」論争」

「悲しい曲」「怖い絵」「陽気なダンス」など、芸術作品・パフォーマンスを記述するために、情動（emotion）・気分（mood）・心情（sentiment）などの感情用語がよく使われる。このように感情用語で記述される芸術作品の特徴は「表出的性質（expressive property）」と呼ばれる。本ワークショップはとくに音楽の表出的性質を取り上げる。

「悲しいメロディ」という記述は、「悲しい人」が人に悲しみを帰属させる記述であるのと同様、メロディに悲しさを帰属させるものであるように見える。だが、メロディは心をもたない人工物であるため、メロディそのものは、悲しみを抱くことも、それを表に出すこともない。当然のことだが、メロディがもつ「悲しみ」は、生物がもつような本物の感情ではない。

とはいえ、その特徴を記述するために感情用語が使われるからには、表出的性質と本物の感情のあいだに何らかの関係があるはずだ。それは一体何なのか。

この問題は、美学や芸術批評だけでなく、隠喩を扱った言語哲学や、感情を扱った心の哲学や音楽心理学でも取り上げられている。本ワークショップでは、そうした多方面からのアプローチを紹介するとともに、それらを比較検討する。